

# 令和6年度シラバス

(Iコース3年文系)

日本大学東北高等学校

## 目 次（Iコース3年文系）

学校シラバス	…	1	
Iコース3学年教育活動シラバス	…	2	3
実践国語（現代文）	…	4	6
実践国語（古典）	…	7	10
実践世界史	…	11	14
実践日本史	…	15	17
地理総合	…	18	20
実践公民（公共）	…	21	23
実践公民（政経）	…	24	27
実践数学	…	28	30
実践理科基礎	…	31	34
体育	…	35	38
英語コミュニケーションⅢ	…	39	42
論理表現Ⅲ	…	43	45
情報Ⅰ	…	46	48
総合的な探究の時間	…	49	51

## 学校シラバス

### 校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

### 本年度の努力目標

1. 奉仕と思いやりの心を持つ      2. 新校舎を大切に学ぼう      3. 自ら学び、考え、道をひらこう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。</li> <li>2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。</li> <li>3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。</li> <li>4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。</li> </ol>
国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。</li> <li>2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。</li> <li>3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学研修を実施する。</li> </ol>
自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。</li> <li>2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。</li> <li>3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別指導を実施する。</li> <li>4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。</li> <li>5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。</li> </ol>
学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。</li> <li>2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。</li> <li>3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。</li> <li>4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。</li> <li>5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。</li> </ol>
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。</li> <li>2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。</li> <li>3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。</li> <li>4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。</li> </ol>

I コース 3 学年 教育活動シラバス

月	指 導 内 容 等	指 導 の ね ら い
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 学期始業式・対面式</li> <li>・ ①体育クラス強化部集会</li> <li>・ 服装頭髪指導</li> <li>・ 登校指導・自転車安全教室</li> <li>・ 春季特別授業</li> <li>・ 後援会紙上総会, 学級懇談会</li> <li>・ 基礎学力到達度テスト</li> <li>・ 個人面談</li> <li>・ ①進路希望調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校 3 年生への切り替え</li> <li>・ 生徒の自律, 自覚指導</li> <li>・ 規範意識の高揚</li> <li>・ 登校時の安全指導</li> <li>・ 基礎学力到達度テストへの最終確認</li> <li>・ 保護者との連携</li> <li>・ 学力向上への啓蒙</li> <li>・ 精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握</li> <li>・ 進路を考える「力」の育成</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒総会</li> <li>・ 自転車安全教室</li> <li>・ 春の交通安全登校指導, 自転車点検</li> <li>・ ①参観授業</li> <li>・ 進路ガイダンス『志望理由書』</li> <li>・ 1 学期中間試験</li> <li>・ 下宿訪問</li> <li>・ スマホ安全教室</li> <li>・ 身だしなみ向上週間</li> <li>・ ①英検</li> <li>・ ①基礎学対策模試</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動への自主的参加</li> <li>・ 自転車の運転に関するルール・マナーの確認</li> <li>・ 登校時の安全指導</li> <li>・ 授業を公開し保護者との連携強化する</li> <li>・ 受験を見据えた準備</li> <li>・ これまでの学習及び学力定着の確認</li> <li>・ 下宿生に対する生活指導</li> <li>・ スマホ使用に関するルール・マナーの確認</li> <li>・ 自己管理の徹底</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ 進学に向けた学力向上を図る</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衣替え, 身だしなみ向上週間</li> <li>・ ①校内体育大会</li> <li>・ ①学校生活アンケート</li> <li>・ ①献血</li> <li>・ ①漢検</li> <li>・ ①数検</li> <li>・ 1 学期期末試験</li> <li>・ 校外補導</li> <li>・ 保護者対象進学説明会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の変化の意識と、自己管理の意識付け</li> <li>・ 体育行事を通じて、級友と一致団結を図る</li> <li>・ 生徒の悩み等の把握</li> <li>・ 公共心の涵養、ボランティア体験</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ 資格取得へのチャレンジ</li> <li>・ これまでの学習及び学力定着の確認</li> <li>・ 校外の風紀を守る</li> <li>・ 保護者と連携し、進路指導態勢と整える</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカシヤ祭</li> <li>・ 進路ガイダンス『入試の仕組み』</li> <li>・ 三者面談</li> <li>・ 基礎学対策模試</li> <li>・ 芸術鑑賞会</li> <li>・ 1 学期終業式</li> <li>・ 夏季進学補習</li> <li>・ 野球応援 (決勝全校応援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な集団形成とクラスメイトとの協働</li> <li>・ 受験への準備とその対策の確認</li> <li>・ 保護者との連携及び生徒の状況把握</li> <li>・ 基礎学力到達度テスト対策</li> <li>・ 生徒の感受性や情緒を養い、教養と興味を深める</li> <li>・ 1 学期を振り返り、今後の生活に活かす</li> <li>・ 学力の定着・発展及び受験対策</li> <li>・ 帰属意識を高め、愛校心を育む</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏季進学補習</li> <li>・ ハイスクールビジット・オープンキャンパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力の定着・発展及び受験対策</li> <li>・ 帰属意識を深める</li> </ul>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期始業式</li> <li>・服装頭髪指導</li> <li>・②体育クラス強化部集会</li> <li>・進路ガイダンス『出願準備』</li> <li>・校内日大模試</li> <li>・秋の交通安全指導</li> <li>・②進路希望調査</li> <li>・生徒会役員選挙</li> <li>・②参観授業</li> <li>・②学校生活アンケート</li> <li>・基礎学力到達度テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期のスタートを円滑にする準備</li> <li>・規範意識の高揚と自己管理の意識付け</li> <li>・生徒の自律，自覚指導と専門性の向上</li> <li>・受験への準備とその対策</li> <li>・学力の定着確認及び受験対策</li> <li>・登校時の安全指導</li> <li>・進路を考える力の育成</li> <li>・選挙活動への興味関心を育成</li> <li>・授業を公開し保護者との連携強化する</li> <li>・生徒の悩み等の把握</li> <li>・日本大学付属高等学校等推薦入試</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣替え，身だしなみ向上週間</li> <li>・②校内体育大会</li> <li>・面談日</li> <li>・②献血</li> <li>・②英検</li> <li>・2学期中間試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の変化の意識と、自己管理の意識付け</li> <li>・体育行事を通じて、級友と一致団結を図る</li> <li>・出願する学校や受験内容の確認</li> <li>・公共心の涵養、ボランティア体験</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・これまでの学習内容及び学力定着の確認</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②漢検</li> <li>・身だしなみ向上週間</li> <li>・学校推薦型選抜入試対策期間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・受験を控えた時期の自己点検</li> <li>・進路実現に向けての個に応じた指導</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ向上週間</li> <li>・2学期期末試験</li> <li>・学年集会</li> <li>・2学期終業式</li> <li>・クリスマスフェスタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理の意識付け</li> <li>・学習活動及び学力定着の確認</li> <li>・規範意識を高揚し，卒業に向けた生活を見直す</li> <li>・2学期の総括と今後の抱負を確認</li> <li>・文化活動の発表体験とその観賞</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期始業式</li> <li>・服装頭髪指導</li> <li>・③体育クラス強化部集会</li> <li>・③英検，③漢検</li> <li>・特別時間割（特別授業）</li> <li>・学年集会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期のスタートを円滑にする</li> <li>・卒業を直前に控えた立場での身だしなみを点検</li> <li>・生徒の自律，自覚指導と専門性の向上</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> <li>・様々な授業を通じ、知識や教養を身に付ける</li> <li>・規範意識，卒業に向けた意識の高揚</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予餞会</li> <li>・②数検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送別していただく自覚をもち、感謝の心を育む</li> <li>・資格取得へのチャレンジ</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賞状授与式，卒業式予行演習</li> <li>・卒業式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の優れた活動を称えると共に、翌日の卒業式に向けた確認</li> <li>・高校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で清らかな行事を経験する。また、新しい生活に向けた希望や期待の心を育む。</li> </ul>

科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践国語(現代文)	4	3学年	Iコース文系

教科書名 高等学校 標準論理国語 (第一学習社)

副教材名 改訂版 学習のポイントが見える よむナビ現代文 2.5 (いいずな書店)

現代語練習帳 ことのは(いいずな書店)

評論速読トレーニング 700(数研出版)

## 1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	新しい博物学を (池内了)  SNSと意見の分極化 (岡本真一郎)	・各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察する。 ・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し、自分に照らして考えを深める。
	6	評論速読トレーニング 700 《中間試験 5/20～5/23》 カブトムシから考える里山と物質循環 (大倉茂)  コミュニケーションの文化 (平田オリザ) 評論速読トレーニング 700 《期末試験 6/25～6/28》	・文章を速読し、要点を捉える。  ・人間と自然との関わりの変化を、自然の社会化という視点から考察した筆者の論理を読み解く。 ・文章構成や事例をもとに「コミュニケーションの文化」についての筆者の主張を把握する。 ・文章を速読し、要点を捉える。
	【課題・提出物】 授業ノート、プリント、よむナビ現代文 2.5		
	【1学期の評価方法】 定期試験の素点に30%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学	9 10	僕らの時代のメディア・リテラシー(森達也)	・筆者の主張の要点を理解し、市場原理の主体とメディアとの関係について考えを深める。

期	11	基礎学力到達度テスト対策演習 評論速読トレーニング 700 《中間試験 10/7～10/10》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力テストに向けて演習を行う。</li> <li>・文章を速読し、要点を捉える。</li> </ul>
	12	科学技術は暴走しているのか(佐倉統)  推論とは何か(仲島ひとみ)  帰納法のワナ—一般化に対する疑問(谷岡一郎)  《期末試験 12/2～12/5》 ビブリオバトル 評論速読トレーニング 700	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A I やロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえ、科学技術との向き合い方を考える。</li> <li>・推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。</li> <li>・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解する。</li> <li>・文章を速読し、要点を捉える。</li> <li>・推薦する本の魅力が伝わるように紹介する。</li> <li>・文章を速読し、要点を捉える。</li> </ul>
	【課題・提出物】 授業ノート、プリント、よむナビ現代文 2.5		
	【2学期の評価方法】 定期試験の素点に20%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	高橋書店 名言大賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で心に残った言葉を探し、その状況とともに紹介する。</li> </ul>
	【課題・提出物】 授業ノート、プリント、よむナビ現代文 2.5		
【年間の学習状況の評価方法】 1～2学期の定期試験の素点に20%を上限とした平常点(3学期分を含む)を加味して総合評価を付ける。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	定期試験・小テスト
思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	定期試験・授業態度・提出物
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通し積極的に他者や社会に関わったり、考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言	授業態度・小テスト・提出物

	語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
--	-----------------------------------	--

#### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 【予習】** 本文を通読しわからない語句や漢字があれば調べておく。  
話題、筆者の主張、その根拠となる部分にマークをつけながら読む習慣をつける。  
各段落の役割を意識しながら読む。
- 【復習】** 授業で学んだ内容を元に、問題演習形式で解答の仕方を定着させる。

小説は副教材を用いて取り扱う。



科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践国語（古典）	3	3	Iコース文系

教科書名 高等学校 標準論理国語（第一学習社）  
副教材名 改訂版よむナビ古典 2.5（いいずな書店）  
ダブルマスター古典文法＋漢文句形（第一学習社）  
入試対策ベストセレクション古文単語 325（尚文出版）  
カラー版新国語便覧 アプリ版（第一学習社）

## 1 科目目標

- ①古文と漢文を読むことを通して日本文化や日本文化に影響を与えた中国文化を学び、広い視野と多様な思考を育成する。
- ②古典作品を通して古人の考えを理解する。
- ③学習した文法や語彙、古典知識を基に、演習を繰り返すことで読解のための力を身に付ける。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○基礎学力到達度テストに向けての演習 授業（3）  【基礎学力到達度テスト：4/18】  ○ <span style="border: 1px solid black;">古文</span> 歴史物語「大鏡」〈弓争ひ〉（6）	○2年次までの既習内容（古典の語彙・文法・知識等）を確認する。  ○歴史物語のエピソードや登場人物の人間像を的確に捉え、敬語に注意しながら作品の価値を理解する。 ※文法事項（敬語法）
	5	○ <span style="border: 1px solid black;">漢文</span> 「淮南子」〈宋人有嫁子者〉（4）  ○古典の演習（課題・小テスト） ・「よむナビ古典」 （古文 <span style="border: 1px solid black;">1</span> ～ <span style="border: 1px solid black;">4</span> ・漢文 <span style="border: 1px solid black;">1</span> ～ <span style="border: 1px solid black;">4</span> ） ・「古文単語 225」単語テスト （第3章）  【1学期中間試験：5/20～5/23】	○父親が娘に伝えた計画の内容を理解し、父親の思惑の何が道理に合っていないのかを読み取る。 ※句法（一部否定・二重否定・感嘆形）  ○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。
	6	○ <span style="border: 1px solid black;">古文</span> 日記「更科日記」 〈源氏の五十余巻〉（5～6）	○晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れるとともに、平安時代の古典知識を深める。 ※文法事項（助動詞の識別・副詞の用法）

	<p>○<b>漢文</b> 歴史「史記」〈四面楚歌〉(6)</p> <p>○古典の演習(課題・単語テスト)        ・「よむナビ古典」        (古文<b>5</b>～<b>特集/文法1</b>・漢文<b>5</b>～<b>7</b>)        ・「古文単語 225」小テスト        (第4章)        【1学期期末試験：6/25～28】</p> <p>7 <b>【夏季休業課題】</b>        「よむナビ古典」        (古文<b>8</b>～<b>12</b>・漢文<b>8</b>～<b>12</b>)</p>	<p>○中国の正史を学び、壮大な歴史や人物関係、人物像に触れることで広い視野と多様な思想を育成する。</p> <p>○長文を通して漢文の表現に慣れ、語句や句形の知識を身に付ける。        ※句法(感嘆形・疑問形・反語形)        ※漢詩のきまり</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>
<p><b>【課題・提出物】</b>        ○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5 等        ○授業内で小テストを実施する。</p>		
<p><b>【1学期の評価方法】</b>        定期試験の素点に30%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>9 ○「基礎学力到達度テスト」の過去の問題の解説。(8～9)        【基礎学力到達度テスト：9/26】</p> <p>○「古文単語 225」        プリントを使って学習し、小テストを行う。(3～4)</p> <p>○古典の演習(課題)        「よむナビ古典」        (古文<b>13</b>～<b>特集2</b>・漢文<b>特集2</b>～<b>句形2</b>)</p> <p>10 【2学期中間試験：10/10～】</p>	<p>○「基礎学力到達度テスト」の過去の問題を解くことで、古文・漢文の問題の傾向や、語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p> <p>○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>

	11	○ <b>古文</b> 説話「御伽草子」(浦島太郎) (7～10)	○昔話として現代まで継承された話を読み、現実と半現実が入り混じる世界に生きる登場人物の心情を読み取る。
		○ <b>漢文</b> 思想「孟子」(仁人心也) (4～6) 「老子」(柔弱) (7～9)	○孟子や老子の思想を理解する。 ○思想の生まれた時代背景について理解を深め、中国の思想がわが国の文化や社会に与えた影響について学習する。
	12	○「古文単語 225」 プリントを使って学習し、小テストを行う。 (3～4)	○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。
【課題・提出物】 ○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5 等 ○授業内で小テストを実施する。			
【2 学期の評価方法】 定期試験の素点に 20%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学期	1	○「古文単語 225」 プリントを使って学習し、小テストを行う。 (3～4)	○古典常識を知ることによって、現在に繋がる日本の伝統や文化を理解する。
【課題・提出物】 ○授業ノート・授業プリント・よむナビ古典 2.5 等			
【年間の学習状況の評価方法】 1～2 学期の定期試験の素点に 20%を上限とした平常点を加味して総合評価を付ける。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	○古典語の語彙や表現力の活用と応用 ・古典の基礎知識が身に付いているか。 ・古典文学を読むことで、広い視野や柔軟な思考を育むことができているか。	○授業態度や学習活動への取り組み方 ○課題等の提出状況

<p>思考・判断・表現</p>	<p>○古典文法を応用した文意の理解状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典文学を読み、内容を把握し、登場人物の心情を読み取り、作者の考え方を理解しているか。</li> </ul> <p>○感想や意見のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙や文法事項、古典知識に注意し、本文を読み理解しているか。</li> </ul>	<p>○学習活動への取り組み状況</p> <p>○ワークシートやノートのチェック</p> <p>○定期テスト・模試</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>○授業に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材に興味を持って意欲的に学習活動に取り組んでいるか。</li> </ul> <p>○学習課題への取り組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典文学を理解するための努力をしているか。</li> </ul>	<p>○学習活動への取り組み状況</p> <p>○ワークシートやノートのチェック</p> <p>○定期テスト・模試</p>

#### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>○予習と復習を怠らないこと。「ダブルマスター古典文法＋漢文句形」・「よむナビ古典 2.5」・「ベストセレクション古文単語 325」などを使って自主的に学習活動に励み、基礎学力の向上を努めること。</p> <p>○主体的かつ意欲的に学習活動に参加すること。</p> <p>○忘れ物や課題の提出遅れの等のないように取り組むこと。</p> <p>《毎時間準備するもの》</p> <p>【古文分野】…教科書・ノート・ダブルマスター古典文法＋漢文句形</p> <p>【漢文分野】…教科書・ノート・ダブルマスター古典文法＋漢文句形</p>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践世界史	5	3学年	Iコース文系

教科書名 詳説 世界史探究

副教材名 詳説世界史探究スタンダードテスト

### 1. 科目目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解する。
- ② 世界の歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。
- ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	・近世ヨーロッパ思想・文化・宗教観の変化を理解する。 ・近世ヨーロッパ諸国の新しい国家体制と、新興国の台頭、諸国の動向を理解する。	
	5	5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	・16～17世紀の文化について理解する。	
		第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	・18世紀にイギリスで起こった産業革命、アメリカ合衆国の独立、フランス革命を理解する。 ・19世紀のアメリカ諸国の動きを理解する。	
	6	1 学期中間試験（14時間）  総復習プリント1～20	・古代～近世の世界についての理解を確認する。	
	7	1 学期末試験		
	【課題・提出物】 ・授業中に配布するプリントの提出（定期試験時に提出）			
	【第1学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（70%） 知識・理解の確認を行う。基礎学力到達度試験をイメージした問題も出題する。 ② 授業態度・確認テスト・提出物などの評価〔＝平常点〕（30%） ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	総復習プリント 21～35  基礎学力到達度テスト	・近世～近代の世界についての理解を確認する。	
	10	第13章 イギリスの優位と欧米国民 国家の形成 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・ 社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の進展と市民文化	・ナポレオン後のヨーロッパの様子を理解する。  ・1848年以降のヨーロッパの様子を理解する。 ・19世紀後半の合衆国の発展の様子を理解する。 ・19世紀の欧米文化・市民文化を理解する。	
		第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	・諸アジアにおけるヨーロッパ諸国の進出と植 民地化の様子を理解する。  ・東アジアにおける勢力の変化を理解する。	
		11	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族主義	・1880年代以降の列強諸国の様子と、第一次世界 大戦の背景となる国際関係を理解する。 ・アジアの民族主義について理解する。
		第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	・第一次世界大戦に至る世界情勢と、大戦中に革 命が開始するロシア情勢を理解する。 ・第一次世界大戦時の世界の様子を理解する。	
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際 秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	・世界恐慌から第二次世界大戦の勃発の様子、戦 後の新しい国際秩序に向けた動きを理解する。		
	第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機	・米・ソ陣営の成立と、陣営に属さない第三世界 の成立から冷戦体制の動揺について理解する。		

12	3 冷戦体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1990年代以降の世界の様子について理解する。</li> </ul>	
	第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相  2学期期末試験		
<b>【課題・提出物】</b> ・授業中に配布するプリントの提出（定期試験時に提出）			
<b>【第2学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績（80%） 知識・理解の確認を行う。基礎学力到達度試験をイメージした問題も出題する。  ② 授業態度・確認テスト・提出物などの評価〔＝平常点〕（20%） ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	映像教材を使用した学習 NHKスペシャル「映像の20世紀」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像で残された歴史的出来事を見て、歴史的な出来事の本当の様子を考察する。</li> <li>・レポート提出で、理解と考察内容を確認する。</li> </ul>
	<b>【課題・提出物】</b> ・授業中に配布するプリントの提出（最後の授業日を提出日とする）		
	<b>【第3学期の評価方法】</b> ① 授業態度・確認テスト・提出物などの評価〔＝平常点〕 ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。		
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 評価は、1学期期末・2学期中間・2学期期末ごとに行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知能・技能	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期テスト</li> </ul>
思考力・判断力・表現力	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。 授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期テスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	世界史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・授業ノート</li> </ul>

### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

随時、学習相談を実施するので、学習についての悩みや問題がある場合には、早めに解決しましょう。



科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践日本史	5	3 学年	I コース文系(日本史)

教科書名 詳説 日本史探究 ( 山川出版社 )

副教材名 最新日本史図表 ( 第一学習社 ) 詳説日本史スタンダードテスト ( 山川出版社 )  
ウィニングコンパス 日本史の整理と演習 (とうほう)

### 1 科目目標

- 日本の歴史を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、国民としての自覚と国際社会に生きる現代人としての資質を養うと共に、歴史事象について公正に判断する思考力や理解力を身に付ける。
- 日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、各時代の特色とその変遷を捉え、歴史と現代の結びつきを認識する能力を身に付けると共に、主体的に歴史を学ぶ姿勢を養う。

### 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第 8 章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸資料から鉄砲とキリスト教の伝来を通して世界と日本が繋がったことを理解する。</li> <li>・ 織豊政権の特徴と発展を理解する。</li> <li>・ 江戸幕府の成立と幕藩政治の展開を中世との政治と比較し多面的に理解する。</li> <li>・ 幕政を当時の日本国内の状況と結び付けたうえで理解する。</li> <li>・ 諸資料から江戸時代の経済状況を把握し、江戸の発展が現代日本と密接に結びついていること理解する。</li> <li>・ 江戸時代の文化の変遷を諸資料をもとに多面的に理解する。</li> <li>・ 幕政に改革が求められた背景を世界との関係性や日本国内の状況から複合的に理解する。</li> </ul>
	5	第 9 章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	
	6	◎1 学期中間試験 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	
	7	第 10 章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化	
		3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	
		◎ 1 学期期末試験	
		【課題・提出物】 ①内容の項目ごとの確認プリント ②詳説日本史スタンダードテストの予習・復習 ③授業内で課されたワークシートや授業ノート	
	【1 学期の評価方法】 ①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。 ②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。		

月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9 基礎学力到達度テストに向けた演習 第11章 近世から現代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	・志望校合格に向けて各自が自身の学習を振り返り進路を実現する力を身に付ける。 ・幕末における日本と世界を取り巻く環境のうねりを多面的に理解する。	
	10 ◎2学期中間試験 第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	・明治維新の諸改革について理解する。 ・立憲国家の成立背景について理解する。	
	11 第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達	・諸資料を基に日本が清やロシアと戦争に至った背景を理解する。 ・大正時代における日本の外交を国内情勢と合わせて理解する。 ・明治時代の産業や文化を近代と比較して、その特徴を理解する。	
	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	・日本が二つの大戦に参戦した原因と結果を、当時の国際状況から理解する。	
	12 第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・日本が軍国主義、そして敗戦に至った経緯を正しい歴史認識のもと理解している。 ・日本の戦後改革と、日本を取り巻く世界の状況を結びつけて理解する。	
	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	・諸資料から日本の政治や経済がどのように立ち直ったのか理解する。	
	第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	・冷戦の勃発が日本にどのような影響を与えたのか判断し、当時の日本の状況を理解する。 ・現代に生きる日本人・社会人として自分にできることを理解する。	
	◎2学期期末試験		
	【課題・提出物】		
	①夏期休業中の課題(基礎学力到達度テストに向けた演習) ②内容の項目ごとの確認プリント ③詳説日本史スタンダードテストの予習・復習 ④授業内で課されたワークシートや授業ノート		
	【2学期の評価方法】		
	①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。 ②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	探究課題 自らテーマを設定し歴史課題を図書 などを用いて探究する	・歴史学習のまとめとして、資料を基に主体的に 歴史課題を探究し、その課題の解決に向けた道 筋を理解する。
		【課題・提出物】 ①授業内で課されたワークシートや課題	
		【3学期の評価方法】 学習態度や授業への姿勢に基づく平常点	
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期中間（1学期と2学期中間までの成績）に進学用の仮評価を行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	日本の歴史に関わる諸事象について、地理的条件 や世界史と関連付けながら理解し、諸資料から日 本の歴史に関する様々な情報を調べて効果的にま とめる技能を身に付けている。	定期考査 ワークシート 課題への取り組み
思考力・判断力・表現 力	日本の歴史に関わる諸事象の意義、伝統と文化の 特色などを年代ごとの比較や、現在とのつながり などに着目して、多面的・多角的に考察し、構想 したことを効果的に説明・議論する力を身に付け ている。	授業態度 定期考査 課題への取り組み 授業ノート
主体的に学習に取り組 む態度	日本の歴史に関わる諸事象について、主体的に探 究しようとする態度を養うとともに、日本国民と しての自覚、日本や世界の歴史・文化を尊重し、 国際社会に生きる現代人に求められる責務につい ての自覚を深めている。	ワークシート 授業ノート レポート課題

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 授業は教科書・副教材を参考に、講義形式を中心に行う。
- 授業中はノートをとると共にメモ書きを増やしていく。板書事項を写すだけでは、ただの作業であり、真の学力は身につかない。授業内容に関する質問も大歓迎である。
- 事前学習は歴史に興味をもつことである。日常の当たり前に疑問をもつ習慣を身に付けること。そのためには日頃から歴史に関わる事柄以外にも多くの情報に触れること。
- 授業ごとの復習を徹底的に行う。一夜漬けの学習では学力・定期試験の点数には結びつかない。地道な積み重ねを確実に増やしていくことが学力向上の最大の秘訣である。
- 「歴史＝暗記」ではない。地道な積み重ねの先にある歴史の探求こそが学習のメインである。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
地理総合	2	3 学年	I コース共通

教科書名 高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）  
 副教材名 新詳地理資料 COMPLETE 2024（帝国書院） 新地理総合ノート（帝国書院）

## 1. 科目目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決することにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身につける。

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1. ガイダンス 2. 地球上の位置と私たちの生活 3. 時差と私たちの生活①	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</li> <li>現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。</li> <li>現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> </ul>
	5	4. 時差と私たちの生活② 5. 統計地図の種類と利用 6. 地理情報システム（GIS）の活用 1 学期中間試験（教科書 P6～26）	
	6	1. テスト返却・解説 2. 現代世界の国家 3. 日本の位置や領域 4. 国家間の結び付き 5. 貿易によって結び付く世界 6. さまざまな交通網の発達 7. 世界を結ぶ通信網の発達	
	7	8. 観光のグローバル化 1 学期期末試験（教科書 P27～42）	
【課題・提出物】 ・授業ノート、ワークブックの点検			
【第 1 学期の評価方法】 ① 定期試験の成績 知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点 授業時の学習過程で、観点別評価内容の 3 項目について評価する。 (30%以内) また、授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	1. 大地形と人々の生活 2. 変動帯と人々の生活 3. 安定地域と人々の生活 4. 河川がつくる地形と人々の生活 5. 海岸の地形と人々の生活 6. 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。</li> <li>・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを考察し、表現する。</li> <li>・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</li> </ul>
	10	7. 気温・降水と人々の生活 8. 大気大循環と人々の生活 9. 世界の植生と人々の生活 <b>2 学期中間試験</b> （教科書 P43～P67）	
	11	1. テスト返却・解説 2. 複雑に絡み合う地球的課題 3. 地球環境問題① 4. 地球環境問題② 5. 資源・エネルギー問題 6. 人口・食料問題① 7. 人口・食料問題② 8. 都市・居住問題①	
	12	9. 都市・居住問題② <b>2 学期期末試験</b> （教科書 P145～188）	
<b>【課題・提出物】</b> ・授業ノート，ワークブックの点検			
<b>【第 2 学期の評価方法】</b> ① 定期試験の成績                      知識・理解の確認のほか、思考力・表現力を問う問題も出題する。 ② 学習態度等の平常点                  授業時の学習過程で、観点別評価内容の 3 項目について評価する。 (20%以内)                              また、授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	1. 日本の自然環境（地形） 2. 日本の自然環境（気候） 3. 地震・津波と防災 4. 火山災害と防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で見られる自然災害について理解する。</li> <li>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設</li> </ul>

1	5. 気象災害と防災 6. 自然災害への備え	定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。
【課題・提出物】		
・ 授業ノート，ワークブックの点検 ・ 冬季休業中の課題（自然環境と防災に関するレポート）		
【第3学期の評価方法】		
・ 冬季休業中の課題，授業ノート，ワークブックの状況などを評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】		
① 定期試験の成績                      知識・理解の確認のほか，思考力・表現力を問う問題も出題する。		
② 学習態度等の平常点                  授業時の学習過程で，観点別評価内容の3項目について評価する。 (20%以内)                                  また，授業ノート・ワークブックの状況なども評価する。		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	世界の生活文化の多様性や防災，地域や地球的課題への取組などの理解，地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能，など。	・ 授業の様子 ・ 授業ノート ・ 定期テスト
思考・判断・表現	地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力，など。	・ 授業の様子 ・ 授業ノート ・ 定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度，など	・ 授業の様子 ・ 授業ノート ・ 探求レポート

### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

地理の授業は自分の視野を広げることが目的です。まずは興味のある分野（スポーツ・音楽・食・ファッション・観光など）を通じて，世界のさまざまな文化や人々の生活に接してみてください。さらに，新聞やニュースなどから現代社会の諸問題にも関心を持ってほしいと思います。

地理に興味・関心がある生徒，また質問などがあれば気軽に担当教員に声をかけてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
実践公民（倫理分野）	5（政治経済を含む）	3 学年	I コース文系

教科書名 高等学校 新倫理（清水書院）

副教材名 テオリア 最新倫理資料集（第一学習社）

用語集 倫理 新版（清水書院） 進研 WINSTEP 倫理 改訂版（ラーズ）

## 1 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探求し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうかあるべきか深く探求していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。（定期試験の中にも大学入学共通テスト（旧センター試験）や私大の過去問題を活用する）
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるようにコミュニケーション能力を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1・2年時の学習内容の確認・復習・演習 基礎学力到達度試験過去問題演習	○1・2年時に学習した内容が大学入試でどのような形で出題されているかの傾向と対策を図る。
	5		
	6	1 学期中間試験  第3章 第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第5編 現代の諸課題と倫理	
	7	1 学期期末試験	

<p><b>【課題・提出物】</b>          中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p><b>【1学期の評価方法】</b></p> <p>①定期試験の成績          教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（30%以内で算出）          授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。          課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	8 夏期進学補習 1・2年時の学習内容の確認・復習・演習	○基礎学力到達度試験問題の傾向と対策を図り、基礎学力到達度試験へ対応するとともに、大学入学共通テスト及び、私大入試へつなげる。
	9 基礎学力到達度試験過去問題演習	
	10 2学期中間試験 1・2年時の学習内容の確認・復習・演習	○1・2年時に学習した内容が大学入試でどのような形で出題されているかの傾向と対策を図る。
	11 12 2学期期末試験	○私大入試対策、大学入学共通テスト対策として、時事問題を各自でまとめる。  ○各自、受験校の過去問題を自己分析し、傾向と対策を図る。
<p><b>【課題・提出物】</b>          中間・期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）</p>		
<p><b>【2学期の評価方法】</b></p> <p>①定期試験の成績          教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト（旧センター試験）の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（20%以内で算出）          授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。          課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>		



	月	学習内容	学習のねらい
	1	大学入学共通テスト（旧センター試験）	○大学入学共通テスト二次試験対策として時事問題を各自でまとめる。
	2	過去問題演習	
3 学 期		【課題・提出物】 期末試験後にノート提出（配布プリント・配信プリントの提出状況等の確認を含む）	
		【3学期の評価方法】 ①学習態度の平常点 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。	
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の中間試験は、定期試験の素点である。 総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。 ○平常点は以下を踏まえて、20%以内で算出する。 ①倫理に対する興味と関心・意欲 ②授業に対する関心・意欲・態度 ③課題等への取組み（宿題等） ④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）			

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	倫理の授業内容を適切に理解し、教科書・資料集・用語集を読みこなすことができる。また、授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができるようにしている。	授業への関心・意欲・態度、定期試験・小テスト・提出物
思考・判断・表現	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察する力を伸ばし、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・提出物
主体的に学習に取り組む態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、自分とは異なる考えを持つ他者を理解する姿勢を身につけようとしている。	授業態度・小テスト・提出物

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

社会科（倫理）は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、背景などにも関心を抱き、身近に感じることで理解が深まっていく。そのためには、授業を受け身で臨むのではなく、自発的に調べ、わかりにくいところがあれば、お互いに質問しあい、理解することに努めてほしい。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践公民（政治・経済）	5（倫理と合わせて）	3学年	Iコース文系

教科書名 高等学校 現代政治・経済 現代をみる力 あしたを拓く力（清水書院）  
 副教材名 政治・経済資料 2023（とうほう） 用語集政治・経済新訂第8版（清水書院）  
進研 WINSTEP（Learn-S）

### 1. 教科目標

- 情報化社会、技術革新の時代と言われ、今日の私たちの生活環境の変動にはめまぐるしいものがある。その一方で、第2次世界大戦後私たちの生活を規定していた「政治」「経済」などの様々な枠組みが有効に機能しなくなり、見直しが余儀なくされる場面も多々見られるようになってきている。政治・経済の授業を通して、これからの社会の中核として生きる高校生が主体的に考え、自分の意見をしっかり持ち、自分の言葉で表現できる力を養っていく。
- 基礎学力到達度テスト・全国共通テスト対策として教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、各種試験に対応できる力を養っていく。
- 新聞・ニュースの活用。大学入学共通テスト・私大入試・対外模試では時事問題として現代社会の出来事が問われることが多い。授業の中で新聞・ニュースを取り入れていくことで、論理的思考を養い、各種試験・時事問題に対応できるような力を養う。
- プレゼン能力が重要な要素となってきたことを踏まえ、論理的にまとめ、発表できるように、コミュニケーション能力を養う。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第2編 現代の経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際政治の動向として、冷戦後の動向について理解する。・日本の安全保障と防衛について理解を深める。</li> <li>・国家間の対立を解消するためには調整し協調することが必要であることを理解する</li> </ul>
		第1章 現代の国際社会と政治	
		3 国際社会の変遷と動向	
		4 国際紛争と軍備管理	
	5	第2章 現代の国際社会と経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較優位の考え方について理解させ、自由貿易論と保護貿易論とを対比させながら、現代の貿易問題と関連させて理解する。</li> <li>・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。</li> <li>・国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。</li> </ul>
		1 国際経済のしくみ	
		2 国際収支と為替	
		3 国際協調と国際経済機関の役割	
	6	4 グローバル化と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年時の学習内容の政治分野を復習し、基礎学力到達度テストに備える。</li> </ul>
		○ 2年時の政治分野の復習・演習	
		1 学期中間試験	

6	○ 2年時の政治分野の復習・演習	・2年時の学習内容の政治分野を復習し、基礎学力到達度テスト・大学入学共通テスト・私大入試に備える。
	○ 2年時の経済分野の復習・演習	
	1学期期末試験 夏期進学補習	
7	○ 基礎学力到達度試験に向けての演習	
8		
【課題・提出物】中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認を含む）		
【第1学期の評価方法】		
①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認。		
②学習態度の平常点（30%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。		
課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ○ 2年時の経済分野の復習・演習	・2年時の学習内容の経済分野を復習し、基礎学力到達度テスト・大学入学共通テスト・私大入試に備える。
	○ 基礎学力到達度試験に向けての演習	
	○ 過去問題演習	
10	○ 総合問題 2学期中間試験	
11	○ 2年時の経済分野の復習・演習	・2年時の学習内容の経済分野を復習し、大学入学共通テストに備える。
	○ 現代日本の諸課題・国際社会の諸課題についてのグループワーク、およびプレゼンテーション	
12	○ 大学入学共通テストに向けての演習  2学期期末試験	・政治経済を総合的にとらえ、グループでの協同作業を通じコミュニケーション能力を養い、同時にプレゼンテーション能力を養う。

	【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリント、配信プリント等の確認も含む）		
	【第2学期の評価方法】 ② 定期試験の成績：教科書を中心とした知識・理解の確認。 ② 学習態度の平常点（20%以内で算出）：授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	○ 大学入学共通テスト対策	・政治経済を総合的にとらえ、グループでの協同作業を通じコミュニケーション能力を養い、同時にプレゼンテーション能力を養う。
	2	○ 現代日本の諸課題・国際社会の諸課題	
	3	○ 課題についてのグループワーク、およびプレゼンテーション	
	【課題・提出物】 ノート提出（配布プリントの確認を含む）		
	【第3学期の評価方法】 ① 学習態度の平常点（20%以内で算出） 授業時などの学習過程で、観点別評価の3項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、プレゼンテーション等の成績を評価する。		
	【年間の学習状況の評価方法】 ○1 学期期末試験・2 学期中間試験・3 学期期末試験の総合成績。 ○平常点は以下の点を踏まえて20%以内とする（1 学期のみ30%） ①政治・経済に対する興味・関心 ②授業に対する関心・意欲、取り組み ② 課題等への取り組み ④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリント、配信プリント等の確認）		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	政治・経済の授業内容を適切に理解し、教科書・資料集・用語集を読みこなすことができる。 授業で得た知識をもとに、現実の事象を論理的に解き明かすことができるようにしている。	定期試験・提出物・プレゼンテーション
思考・判断・表現	先入観にとらわれず、公平・公正な立場で物事を考察する力を伸ばし、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができるようにしている。	授業態度・定期試験・提出物・プレゼンテーション
主体的に学習に取り組む態度	政治・経済に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、自分とは異なる考えを持つ他者を理解する姿勢を身につけようとしている。	授業態度・提出物

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 教科書の中身は抽象的に表現されており、そのまま理解しようとするとは難しく感じるものだが、授業で習っていることは、実は皆さんの身の回りに具体的なものとして存在していることばかりである。その事に早く気づき、抽象的なものを具体的事項として置き換えて理解しようとするれば、知識は深まっていく。
- 分からない所は、分からないままにするのではなく、積極的に質問に来てほしい。知らないことは恥ずかしいことではなく、知らないことをそのままにしておくの方が恥ずかしい。理解できない所、つまづいている所があれば積極的に、早めに解決していきましょう。
- 2年次から使用している進研 WIN-STEP を有効に活用し、自主的に取り組みましょう。提出は求めないが、取り組んでいる人と取り組まない人の差は一目瞭然である。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践数学	4単位	3年	Iコース文系

教科書名 なし

副教材名 数学C〔ベクトル〕標準編（数研出版）アベレージ数学IA・数学II・数学B

### 1. 科目目標

- 基礎学力到達度テストに対応できる学力を身に付ける。
- 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身に付ける。
- 答え（結果）だけではなく、解く過程を数字や文字を用いて表現できる能力を育成する。
- 発展的な内容にも自発的に取り組み、授業以外の場面での学習を充実させる。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい 学習チェックリスト
1 学 期	4	春季特別講座 [3] 基礎学力対策 基礎学力到達度テスト(4/18)	
	5	平面ベクトルの演算 平面ベクトルの分解 平面ベクトルの成分 平面ベクトルの内積 平面図形とベクトル 1学期中間試験(5/20~23)	<input type="checkbox"/> ベクトルの和・差を理解する。 <input type="checkbox"/> 成分で表されたベクトルの様々な利用法を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 内積の計算を正しく行うことができる。 <input type="checkbox"/> 平面図形に用いられるベクトルを正しく利用する方法を学習する。
	6	基礎学対策模試 5/30 空間座標 空間ベクトルの成分	<input type="checkbox"/> 空間座標を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 空間ベクトルを成分で表し、その利用を理解し、正しく計算することができる。
	7	空間ベクトルの内積 座標空間の図形 1学期期末試験(6/25~6/28) 基礎学対策模試 7/17	<input type="checkbox"/> 内積の計算ができる。 <input type="checkbox"/> 球面や平面の方程式を理解する。
<b>【課題・提出物】</b> 問題集を参考にしたプリントを課題とする。 解答・丸付けまで終えて、課題を提出する			
<b>【第1学期の評価方法】</b> 定期試験の成績(70%)                      1学期中間試験・1学期期末試験の計2回 学習態度等の平常点(30%)              課題の取り組み・提出状況、授業への取り組み			

	月	学習内容	学習のねらい 学習チェックリスト
2 学 期	9	<div style="text-align: right;">校内日大模試(9/3)</div> 基礎学力到達度テスト対策 <div style="text-align: right;">基礎学力到達度テスト(9/26)</div>	<input type="checkbox"/> 基礎学力到達度テストに向けて、公式・解法等を確認し、試験に対応できる力を身に付ける。  <input type="checkbox"/> 場合の数を復習し、1年生の時に不明だった点や発展的な内容を理解する。 <input type="checkbox"/> 三角比を復習し、1年生の時に不明だった点や発展的な内容を理解する。 <input type="checkbox"/> データの分析を復習し、共通テストの問題に対応できる力を育成する。
	10	基礎学力到達度テストの復習 <div style="text-align: right;">2学期中間試験(10/7~10)</div>	
	11	数学ⅠAの内容の復習	
	12	<div style="text-align: right;">2学期期末試験(12/2~5)</div>	
<b>【課題・提出物】</b> 問題集を参考にしたプリントを課題とする。 解答・丸付け・復習まで終えて、課題を提出する。			
<b>【第2学期の評価方法】</b> 定期試験の成績(80%)                      1.2学期中間・1.2学期期末試験の計4回の総合評価 学習態度等の平常点(20%)              課題の取り組み・提出状況、授業への取り組み			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	総合演習 <div style="text-align: right;">特別授業 1/14~29</div>	<input type="checkbox"/> 大学入試問題に触れ、学力を伸ばす。 <input type="checkbox"/> 数学検定試験やビジネス検定試験の問題に触れ、今後の資格試験への足掛かりを作る。
	<b>【課題・提出物】</b> 特になし		
	<b>【第3学期の評価方法】</b> 1、2学期までの成績を基本とする。		
	<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 定期試験の成績(80%)                      3学年時の定期試験(合計4回の年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)              日常の課題の提出状況を評価する。		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>授業の内容を理解し、それを活用することで問題を解くことができる。</p> <p>課題を通じて、基礎的・標準的な問題を解くことができる。</p> <p>定期試験において、標準的な知識の習得に関する問題を解くことができる。</p>	<p>授業態度</p> <p>課題</p> <p>定期試験等</p>
思考・判断・表現	<p>授業の内容を深く考察し、抽象的な内容を正しく理解することができる。</p> <p>定期試験において、問題を読み、解法の考察ができる。</p> <p>また、授業で得た知識を活用し、解答を表現することができる。</p>	<p>授業態度</p> <p>課題</p> <p>定期試験等</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学に興味・関心を持ち、積極的に授業へ参加することができる。</p> <p>授業で学んだことを生かし、発展的な課題の問題に着手し、理解を深めることができる。</p>	<p>授業態度</p> <p>課題</p>

### 4. 学習サポート

1学期はベクトルという新しい単元の内容を扱います。これまでに習ってきた内容を活用していきます。授業の復習を大切にし、不明な点を作らずにしましょう。

2学期以降は、受験対策となります。1学年から積み重ねてきた内容の集大成です。学び直すチャンスです。高校生として身に付けて欲しい内容ですので意欲的に取り組みましょう。



科目	単位数	対象学年	対象クラス
実践理科基礎	2	3 学年	I コース文系

教科書名 化学基礎 academia (実教出版) 生物基礎 (啓林館)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社)

学ぶキミを引き出す化学基礎 (Learn-S)

学ぶキミを引き出す生物基礎 (Learn-S)

## 1. 科目目標

### 1. 「理科」の面白さを知る

「理科」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

### 2. 客観的な視点を育む

「化学」と「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

### 3. 探究心・言語表現力を育む

「化学」と「生物」で学ぶ内容は、自分自身のからだや生活、社会と密接に関わるものが多い。このため、教科書に加えて新聞記事などを利用し、知識や理解をさらに深める。また、生命倫理に関する問題などについては、ディベートやレポートを通して言語表現力を育む。

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	<b>【化学基礎分野】</b> 1.純物質と混合物・2.物質の構成元素・3.物質の三態・4.原子の構造 1・5.原子の構造 2・6.元素の周期律と元素の性質	純物質と混合物の分類方法を理解する。物質の状態変化について理解する。分子の構造を理解する。周期表の構成とその意味について理解する。
	6	<b>【生物基礎分野】</b> 1.生物の共通性と多様性・2.細胞の共通性と多様性・3.酵素のはたらき・4.ATP とエネルギー・5.呼吸・6.光合成・7.物質とエネルギーの流れ	生物の多様性と共通性について理解する。細胞内で生じた ATP が、広く生命活動に利用されていることを理解する。呼吸と光合成の反応を理解する。生態系内でのエネルギーの移動について理解する。
		1 学期中間試験	

	<p><b>【化学基礎分野】</b> 7.イオン・8.イオン結合・9.共有結合・10.電気陰性度と分子極性・11 分子結晶と共有結合の結晶・12 金属結合</p> <p><b>【生物基礎分野】</b> 8.遺伝子とゲノム・9.DNA の抽出・10 遺伝情報の分配・11.遺伝情報とタンパク質の合成①・12 遺伝情報とタンパク質の合成②・13.遺伝子診断</p> <p>1 学期期末試験</p>	<p>原子が陽イオンに,または陰イオンになるときの電子の動きを理解する。イオン結合・共有結合・金属結合について学習する。</p> <p>DNA が遺伝情報を担う物質であることを理解する。DNA の特徴を理解する。DNA からタンパク質が合成されるまでの過程(転写・翻訳)を理解する。</p>	
	<p><b>【課題・提出物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中のワークシート</li> </ul>		
	<p><b>【第1学期の評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験の成績 (70%)</li> <li>・ 学習態度及び提出物 (30%)</li> </ul>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	7  9  10  11  12	<p><b>【化学基礎分野】</b> 13.原子量,分子量,式量・14.物質質量(モル)・15.溶液の濃度・16.化学反応式と個数の関係・17.化学反応式と量的関係</p> <p><b>【生物基礎分野】</b> 14.体内環境・15.腎臓のはたらき・16.肝臓のはたらき・17.自律神経とホルモン・18.免疫①・19.免疫②・20.生活習慣と恒常性</p> <p>2 学期中間試験</p>	<p>化学式と原子量について理解する。モル濃度を用いて,1Lあたりに何 mol の粒子が含まれているか理解する。化学反応式の表し方を学習する。</p> <p>恒常性のしくみを理解する。腎臓における水分量の調節を学習する。肝臓で起こる反応を理解する。免疫に関わる細胞とそのはたらきを理解する。</p>

	<p>【化学基礎分野】 18.酸と塩基・19.酸の強弱，価数・20.水素・21.中和反応と塩の生成・22.中和滴定</p> <p>【生物基礎分野】 21.生態系・22.植生と遷移・23.世界のバイオーム・24.日本のバイオーム・25.生態系と物質循環・26.生態系のバランス・27.生態系の保全</p> <p>2 学期期末試験</p>	<p>酸と塩基の性質を理解する。強酸と弱酸の性質の違いを理解する。中和反応の量的関係の計算を学習する。</p> <p>生態系と人間の関係を理解する。植生・バイオームについて学習する。日本のバイオームについて学習する。生態系内における物質(炭素・窒素)の循環について学習する。</p>	
	<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中のワークシート</li> </ul>		
	<p>【第2学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験の成績（80%）</li> <li>・ 学習態度及び提出物（20%）</li> </ul>		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学期	1	<p>【化学基礎分野】 23.酸化と還元・24.酸化数・25.酸化剤と還元剤・26.金属のイオン化傾向・27.電池と電気分解</p>	酸化と還元の定義を理解する。酸化剤と還元剤のはたらきの化学反応式を学習する。電気分解のしくみを理解する。
	<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中のワークシート</li> </ul>		
	<p>【第3学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習態度及び提出物（100%）</li> </ul>		
	<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する</li> </ul>		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然科学に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時の様子</li> <li>・ 課題提出</li> <li>・ 定期テスト</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。</li> <li>・ 自然科学について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時の様子</li> <li>・ 課題提出</li> <li>・ 定期テスト</li> </ul>

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。</li> <li>・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の様子</li> <li>・課題提出</li> <li>・定期テスト</li> </ul>
----------------------	---	--

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時、学習相談を実施しています。</li> <li>・ 授業内容と問題集の橋渡しとして、單元ごとに演習プリントによる演習を行います。</li> </ul>
--

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

## 1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①挨拶・集合・体形 ②方向変換・列の増減  体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画  (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次）  陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できる力を身に付ける。  ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を育成する。  ・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響  ・2年次までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切に、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む力を育成する。 ・毎年継続して実施をする、スポーツテスト〔走〕種目における、自己の目標達成及び記録向上を目指す。

5	スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳 び・ハンドボール投げ	・自分の今持っている体力を知り日常の運動の 習慣を身につけ，生涯スポーツに繋がる土台を 育成する。
6	ソフトテニス ① オリエンテーション	ソフトテニスの基礎技術を身につけ，ネット型スポ ーツの特性を理解する。
7	② グランドストローク （フォア・バック・ロブ） ③ バックハンド ④ サービス ⑤ ルール ⑥ ゲーム（簡易ゲーム・ダブルス）	（生徒自らが）主体的にゲームを中心とした活動が 出来る力を育成する。 フォアハンド、ロブを重点に習得し，ラリー（乱打） を継続できる力を身に付ける。 バックハンドの技術，およびサービスを狙った所へ 打つことの出来る力を身に付ける。 生徒の技量に合わせた内容で試合（簡易ゲーム含） が出来る力を身に付ける。
	理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営 などを学ぶ	生涯スポーツの選択肢の一つとして，ソフトテニス も含まれるような知識，技能を身に付ける。

【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施予定。

【第1学期の評価方法】

1. 実技試験（60%）

①ソフトテニスの基礎技術に関する試験を実施する。

グランドストローク（フォア・バック）、サービス、簡易ゲームによる技術的評価

②スポーツテスト（新体力テスト）

・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び  
※実施時間数によって上記種目から選択をし、評価に加える。

2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）

- ・積極的に授業へ参加し，準備や片付けも協力してできる。
- ・正しい服装で授業へ参加できている。
- ・ルール等の確認テスト。

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 体づくりの運動 ① 体ほぐしの運動 ② 体力を高める運動	長期休業後の体力回復，怪我，病気等の予防につな がる力を育成する。 特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。

10 11 12	〔球技選択〕 バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール等  ・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施  体育理論 ・実施する種目のルール・技術の知識の習得	今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、自らが主体となって種目（授業）を展開する力を身に付ける。 生涯スポーツにつなげられるよう、多岐にわたる種目を選択・実施する。  実施する種目ごとに基礎的スキル・ルール、ゲームの進め方についての知識・技能を身に付ける。
<b>【課題・提出物】</b> 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施予定。		
<b>【第2学期の評価方法】</b> ①実技試験（60%） ・主とする実施種目への取り組み及びスキル評価表を基に評価する。 ※選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 〔球技選択〕	授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを学習する。 種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進める力を身に付ける。
<b>【課題・提出物】</b> なし		
<b>【第3学期の評価方法】</b> 1. 実技試験・授業への取り組み（60%） ・主とする実施種目への取り組みを基に評価をする。 2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%） ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
<b>【年間の学習状況の評価方法】</b> 1 学期末と2 学期末に進学用の仮評定を算出する。 学年末の評定（評価）は1 学期・2 学期・3 学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。		

### 3 観点別評価内容および評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。</li> <li>2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており、ゲームに生かすことができる。</li> <li>3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い、攻防を展開できる技能を有する。</li> <li>4. ミニゲームの審判を務めることができる。</li> </ol>	<p>実技テスト 確認テスト 記録 観察</p>
思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し、伝えようとしている。</li> <li>2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。</li> </ol>	<p>記録 観察</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。</li> <li>2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし、学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。</li> <li>3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。</li> </ol>	<p>記録 観察</p>

### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応する。



科目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーションⅢ	5	3	Iコース

教科書名	BIG DIPPER English Communication III	(数研出版)
副教材名	英単語ターゲット1400	(旺文社)
	Listening Platform 2	(いいずな書店)
	大学入試 レベル別 英語長文問題集 THE LEVELS 1 私大標準レベル	(旺文社)
	Listening Platform 3	(いいずな書店)
	SWの王道 大学入試4技能試験対応コア表現トレーニング上級編	(いいずな書店)

## 1. 科目目標

<p>学習のねらい</p> <p>聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの領域を総合的に扱う。聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通し、4技能5領域を育成する。「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を身に付ける。</p>
--

## 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson1 Is the Meat Real or Fake? 「代替肉」が地球を救う? ●例示 Lesson1 京都産業大学 (242words) 15 (10) 分	☆BIG DIPPER☆ 本文2ページ…2時間 3ページ…3時間 6ページ…6時間ペースで考える。
	5	Lesson2 Let's Have a Healthy Workout 筋トレがブームに ●追加 Lesson2 昭和女子大学 (265words) 15 (10) 分	☆大学入試 レベル別 英語長文問題集 THE LEVELS 1 私大標準レベル☆ 時間を計り、実際に解く (Lesson1に付き、2時間ペースで考える。)
		Lesson3 My Opinion of Zoos 動物園の是非 ●討論でよく使う表現 Lesson3 東京女子大学 (282words) 20 (15) 分	☆Listening Platform 2☆ 1学期中間試験明けから、1時間に1問または1ページペースで Lesson16～進める。1学期期末試験までに～ Lesson18、9月基礎学力到達度テスト前に Lesson19, Listen20を進め終了する。
		Lesson4 成蹊大学 (323words) 20 (15) 分	
		Lesson5 日本大学 (348words) 20 (15) 分	☆英単語ターゲット☆ 601～1400 (1週間に50個ペース) 長期休業明けは個数を増やす対応を取り、9月基礎学力到達度テスト前に終了する。テスト後は、復習テストを行う。※別紙参照。
		《1学期中間試験》	

1 学 期	6	Lesson4 The History of <i>Ekiben</i> 日本人が愛する駅弁 ●言い換え表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>各段落が、主題文 (Topic Sentence) と支持文 (Supporting Sentences) で構成されていることを理解する。</li> <li>※主題文 (Main Idea を伝える) と支持文 (Main Idea を説明する) の区別を学習する。</li> <li>文章の構成 (各段落の役割) を理解する。</li> <li>※序論 (文章のテーマを提示/Introduction) ⇒ 本論 (論理展開/Body) ⇒ 結論 (文章の結論を提示/Conclusion) の流れを学習する。</li> <li>主な展開パターン (追加・列挙=主張に対し, 根拠を列挙し展開/時間的順序=時間の流れに沿って展開/因果関係=原因・理由に対し, 結果を示して展開/対比=2 つ以上の要素を比較/譲歩=主張に対し, 反論を示して展開) を理解する。</li> </ul>
		Lesson6 成城大学 (295words) 20 (15) 分 Lesson5 Three Tips for Maintaining a Conversation 会話を続ける 3 つのコツ ●列挙 Lesson7 甲南大学 (352words) 25 (20) 分 Lesson8 東洋大学 (353words) 25 (20) 分 Lesson9 甲南大学 (344words) 25 (20) 分 Lesson10 神戸学院大学 (363words) 25 (20) 分	
《1 学期期末試験》			
【課題・提出物】		【1 学期の評価方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>英単語小テスト</li> <li>授業中板書事項まとめノート</li> </ul>		定期試験素点：70% (中間試験及び期末試験) 平常点：30% (課題提出, 小テスト, 授業態度等)	
月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	Lesson6 The History of Recorded Music 音楽メディアの歴史 ●時間的順序 Lesson11 駒澤大学 (381words) 25 (20) 分 Lesson7 Online Word-of-Mouth レストランの口コミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知語の意味を推測しながら読み進める技術を学習する。</li> <li>※ (A) …接続詞の前後関係から読み説く (B) …文脈 (文章の流れ) から読み説く (C) …接頭辞 (dis-) や接尾辞 (-able) から読み説く</li> <li>強弱やリズムを意識して音読し, Listening や Speaking 能力を育成する。</li> <li>※アクセントのある音節 (名詞や動詞) はゆっくり, アクセントのない音節は早口で発音する。</li> <li>※内容語 (名詞や動詞, 形容詞や副詞) は強く, 他語 (冠詞や接続詞, 前置詞や代名詞, 助動詞, be 動詞) は弱く発音する。</li> <li>※意味の上で重要な語を最も強調して発音することを理解する。</li> </ul>
		Lesson12 成城大学 (345words) 25 (20) 分	
		Lesson13 追手門学院大学 (398words) 25 (20) 分	
	10	Lesson14 近畿大学 (428words) 25 (20) 分	
		Lesson15 亜細亜大学 (414words) 25 (20) 分	

2 学 期	《2学期中間試験》	
	11	Lesson8 After the Flowers 植物のさまざまな戦略 ●因果関係 Lesson9 Hot Springs at Home and Abroad 日本と世界の温泉施設 ●対比 Lesson10 <i>Kintsugi</i> ものを大事にする日本の文化 Lesson11 Art on Display 博物館の展示内容
	12	Lesson12 Can You Manage Your Anger 「怒り」のコントロール ●譲歩 Lesson13 Crowdfunding クラウドファンディングとは？ Lesson14 A New Orchestra and a New Harmony パラグアイのユニークなオーケストラ ●新聞記事を読むために
	《2学期期末試験》	
	【課題・提出物】 ・英単語小テスト ・授業中板書事項まとめノート	【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度等）
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson15 Instant Replay in Sports スポーツにおける判定のビデオ検証 Lesson21 Having a Discussion ディスカッションの注意点
	【課題・提出物】 特になし	【3学期の評価方法】 試験素点：80%（1学期からの総合評価） 平常点：20%（1学期からの総合評価）
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（年間4回の試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期平常点の平均点）		

### 3. 評価観点、内容及び評価方法

評価項目	評価観点及び内容	評価方法
知識・技能	各単元のトピックに対する興味・関心を深める。また、英単語の意味や綴りを正確に学習する。	授業への参加姿勢 英単語テスト・定期試験
思考・判断・表現	各単元のトピックに関して、自ら考え、自分の意見を発表できる力を育成する。	授業への参加姿勢
主体的に学習に取り組む態度	授業内容を正確に理解し、日本語訳に頼らず、内容を把握する。また、自ら学習に励み、積極的に知識の定着を図ろうと学習する。	授業への参加姿勢 英単語テスト・定期試験

### 4. Listening Platform 2 (リスニング教材) の取り扱いについて

3年次の英語コミュニケーションⅢは、週4時間です。毎時間、10～15分を割き、日本人教員によるListening授業を行います。リスニングの強化は、基礎学力到達度テスト時に役立ちます。聴くことを習慣化し、能力向上に努めます。授業では、各文のポイント、また、決め手となるキーワードやキーセンテンスを、分かりやすく伝えます。授業では、聴く⇒解答・解説⇒聴く のサイクルで、多聴を心がけます。Lesson16～20を基礎学力到達度テスト前に終了します。

### 5. Listening Platform 3, Pair & Share 3 (S/WⅢ教材) の取り扱いについて

3年次のS・WⅢ(英語コミュニケーションⅢに組込)は、週1時間です。Native TeacherによるListening授業(日本人教員・・・アシスタント)を行います。リスニング能力向上に加え、英会話に慣れること、英作文技術向上を図ります。Native Teacherの自然な英語に触れ、クラスメイトとのペアワークを重ね、英語に対する興味・関心を高めましょう。10月以降は、各自がプレゼンテーションをできるように、テキストに特化しない内容で授業を進めます。SWの王道 大学入試4技能試験対応コア表現トレーニング上級編から、毎テスト10点分として出題します。

### 6. 学習サポート(事前・事後学習等について)

予習(分かる・分からないを区別)⇒授業(分からないところを確認)⇒復習(分からないところを理解)⇒演習(練習問題等で各種試験対策)の4本立てで、「黄金サイクル」を確立しましょう。予習では、単語・熟語の意味調べ、文法を含む文構造の理解に挑戦し、授業では、速読を重視します。復習は、その日のうちに!学習内容を確実に知識に変えましょう。演習は3～5回繰り返すこと。英作文にも挑戦し、Listening, Writing, Reading, Speakingと、4技能における全分野能力upを目指します。質問は休み時間、放課後、自宅からロイロ等で。皆さんの学習体勢を常に応援します!

科目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現Ⅲ	3	3	文系・理系

教科書名 be English Logic and Expression III Clear (いいずな書店) : 以下(b)と標記

副教材名 Grammar Collection 英文法・語法問題集 (いいずな書店) : 以下(G)と標記

### 1. 科目目標

① 言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を身につける。ここで言う論理的とは「筋道が立っている」ということを意味する。
② 基礎学力到達度テストや大学入学共通テスト等大学入試に対応できる英文法・語法の力を育成する。

### 2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
1 学 期	4月	(b) Lesson 1 A City Worth Visiting 街を紹介する (G) 2 受動態	【題材に関するタスク】 国内外の街に関する文章や街の課題に関する文章について、情報を整理し理解する。  【文法】 受動態 時制 助動詞 仮定法
	5月	(b) Lesson 2 Our Hometowns 生まれ育った街について話す (G) 1 時制 3 助動詞 4 仮定法	
	1 学期中間試験		
	6月	(b) Lesson 4 How Do You Spend Your Time? 時間の過ごし方 (G) 1 5 比較 (b) Lesson 7 Combatting Climate Change 気候変動について考える (G) 1 0 関係詞	【題材に関するタスク】 ひとり時間の過ごし方に関する文章や環境問題について、情報を整理し理解する。  【文法】 比較 関係詞 不定詞 動名詞
	7月	5 不定詞 6 動名詞	
1 学期期末試験			
【課題・提出物】 ・休業期間中の課題 (G) Review 1,2 重要イディオム I, II ・授業用ノート・プリント			
【1 学期の評価方法】			

定期試験素点：70%（1学期中間試験・1学期期末試験） 平常点：30%（提出物・小テスト・授業態度）		
月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
2 学 期	9月 (G) 7 分詞 (G) 8 動詞の語法① (G) 9 動詞の語法② (G) Review 3 (G) 重要イディオムⅢ (b) Lesson 8 Future Energy Sources これからのエネルギー	【題材に関するタスク】 再生可能エネルギー，洋上電力発電について，情報を整理し理解する。  【文法】 分詞 動詞の語法
	10月 2学期中間試験	
	11月 (b) Lesson 12 Helping to Fight Poverty 貧困のない世界へ  (G) 1 1 接続詞 (G) 1 2 前置詞  プレゼンテーション	【題材に関するタスク】 世界の貧困について，情報を整理し理解する。 プレゼンテーション例の情報を整理し，解決策を提案する。 構成に注意して，実際にプレゼンテーションする。  【文法】 接続詞 前置詞
	12月	2学期期末試験
	【課題・提出物】 ・休業中の課題 ・授業用ノート・プリント	
【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）		
月	学習内容	学習のねらい及び評価のポイント
3 学 期	12月 (b) Optional Lessons Language Learning	ディベート
	1月	【課題・提出物】 ・授業用ノート・プリント
	【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（1学期中間試験・1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）	
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（定期試験素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）		

### 3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点	評価方法
①知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，知識を増やしたり，技能を習得したりしている。	授業態度（積極性） 発言評価 課題提出 小テスト及び定期考査
②思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けている。	

③主体的に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力を身に付けたりしようとする取り組みの中で，自らの課題を解決していく姿勢を育成する。	
-------------	---	--

#### 4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

文法は長文を読み解く大切な要素です。基礎の復習を徹底して行ない，系統的に理解しましょう。

演習問題は繰り返し学習することによって習得することができます。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
情報 I	1	3 学年	I・II コース

教科書名 高校情報 I JavaScript (実教出版)

副教材名 ポイント整理 情報モラル (数研出版)

## 1 科目目標

- ①多様なコミュニケーションの実現，情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。
- ②様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用する力を養う。
- ③情報と情報技術を適切に活用するとともに，新たな価値の創造を目指し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ガイダンス</li> <li>● PC・教室利用について</li> <li>● PCの個人設定</li> <li>● タイピング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCの個人設定を行い，利用環境を整える。</li> <li>・タイピングソフトの利用の仕方を確認し，タイピングに取り組む。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アルゴリズムとプログラミング JavaScript</li> <li>● 処理手順</li> <li>● いろいろなアルゴリズム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの流れを構造的に図示できるフローチャートや処理手順について理解する。</li> <li>・JavaScript プログラミングを行い，動作させることができる。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ネットワークの動作としくみ</li> <li>● 通信の仕組み</li> <li>● IPアドレス，ホスト名</li> <li>● プロトコル</li> <li>● インターネットの仕組み</li> <li>● ドメイン名</li> <li>● DNS サーバの役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信に必要な知識や用語を理解し，その仕組みや役割について理解できる。</li> <li>・インターネットの仕組みや各種機器の役割を理解し，実際に通信するための情報をネットワークから取得できる。</li> </ul>
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】</p> <p>授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p>			



		② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。 ③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ インターネット</li> <li>● WWW について</li> <li>● URL の概念</li> <li>● Web ページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り, Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。</li> <li>・ Web ページを便利に利用するため, 検索サイトの構造や使用方法について理解する。</li> <li>・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。</li> <li>・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し, 安全な利用法について理解する。</li> <li>・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し, 安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。</li> </ul>	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報セキュリティ 1</li> <li>● 不正アクセス</li> <li>● ファイアウォール</li> <li>● コンピュータウィルス</li> <li>● スパイウェア</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報セキュリティ 2</li> <li>● 情報の暗号化の仕組み</li> <li>● 共通鍵暗号方式</li> <li>● 公開鍵暗号方式</li> <li>● 電子署名, ハイブリッド暗号方式</li> </ul>		
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 表計算ソフト</li> <li>● 表計算ソフトの基礎</li> <li>● 計算式</li> <li>● 基本の関数</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し, 計算式や関数を使用して計算の自動化ができる。</li> </ul>
	12	2 学期期末試験		
<p><b>【課題・提出物】</b>  授業で配布する資料プリント, 授業ノート  実技演習課題</p>				
<p><b>【2 学期の評価方法】</b></p> <p>① 学期末試験 50% 2 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。  知識・理解の確認とともに, タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 表計算ソフト</li> <li>● いろいろな関数</li> <li>● グラフ表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。</li> <li>・ グラフ作成の技術を身に付ける。</li> </ul>	

【課題・提出物】 実技演習課題
【3学期の評価方法】 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。

### 3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート</li> <li>・実技演習課題</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技演習課題</li> <li>・プログラミング</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングテスト</li> <li>・プログラミング</li> <li>・授業時の取り組み</li> <li>・学習活動の観察</li> </ul>

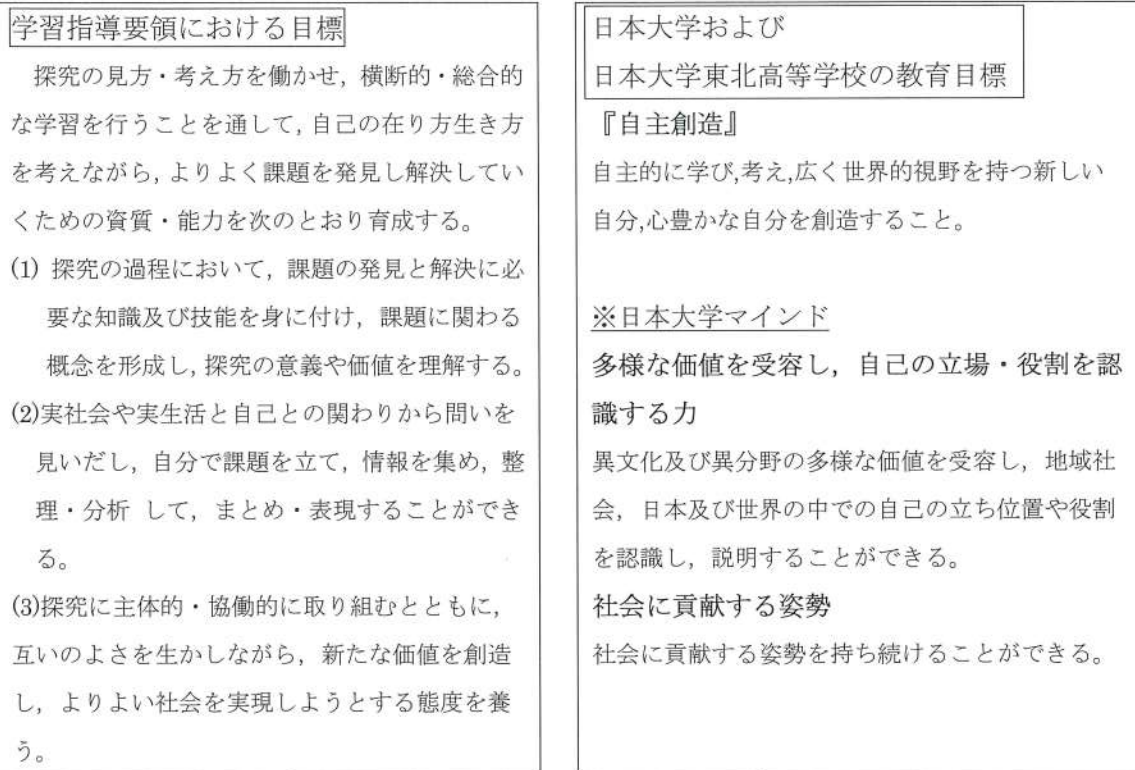
### 4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ、ブラインドタッチに挑戦しましょう。</li> <li>・実技については、毎時間課題を課します。時間ごとの内容を確認するのでしっかり覚えましょう。</li> </ul>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	3 学年	I コース全クラス

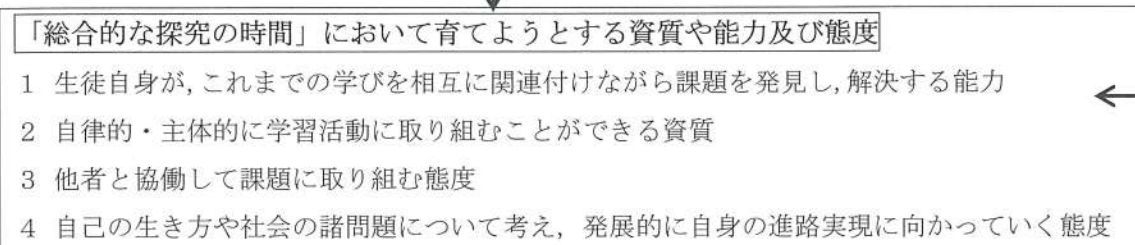
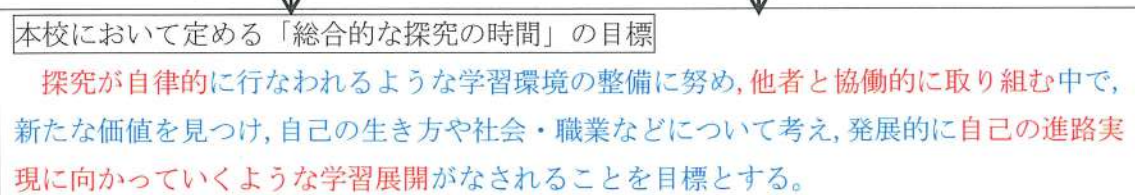
教材名 「ゼロから始める探究活動」 啓林館

## 1 科目目標



踏まえて

踏まえて



相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力

- 2 各学年の目標および探究するテーマ
- 1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。  
職業や自己の進路、キャリアに関するテーマ
- 2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する → ロハス探究
- 3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

### 3 学習計画及び評価方法

学期	回	活動内容	活動のねらい・留意点
1 学期	1	オリエンテーション 集会形式 (SAKURA ホール)	探究活動の意義や目的を知る。 探究活動の進め方を確認する。
	2	1 問いを立てる	
	3	テーマの絞り込み	興味関心からテーマを決める。
	4	「問い」を立てる	すぐに答えが見つからない「問い」を探す
	5		マジックワードに注意する
	6		
	7	中間発表	1学期の活動について振り返りを行う。
2 学期	8	2 情報の収集	
	9	計画の立案	仮説を立て、実証するために方法を計画する
	10	実験・観察	対照実験を心がける
	11	文献調査	調べ学習に陥らないようにする 複数の文献を用いる
	12	アンケート調査 インタビュー	対象者に偏りがないように注意する 求めている回答に誘導しないようにする
	13	3 整理・分析	情報の関係性を見つけ、結論を導く グラフやシンキングツールを利用する
	14		
	15	4 まとめ・表現	
3 学期	16	ポスター作成	図・表と文章をバランスよく用いる
	17		
	18		
	19		
	20		
	21	ポスター発表	聞き手とコミュニケーションをとることを意識する

#### 4-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p>	<p>学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p>
----------------------	--	--

4-(2) 評価基準（ルーブリック）

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
<p>知識・技能 知識・技能</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p>
<p>課題を発見する力 思考・判断</p>	<p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p>
<p>課題を解決する力 思考・判断</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をすることができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p>	<p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p>
<p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p>	<p>発表するための準備が不十分である。</p>
<p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p>	<p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p>